

令和5年度 自己評価結果【涸沼学園】

I 養育・支援の基本方針と組織

1 理念・基本方針

	自己評価結果		
(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。	a	b	c
1 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	○		
特記事項 ・理念や基本方針は、会議や研修会での説明等をもって職員への周知を図っている。			

2 経営状況の把握

	自己評価結果		
(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。	a	b	c
2 施設経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	○		
3 経営課題を明確にし、具体的な取り組みを進めている。	○		
特記事項 ・社会福祉事業全体の動向について、具体的に把握し分析している。 ・経営状況や改善すべき課題について、職員に周知するとともに、課題の解決・改善に向けて具体的な取り組みを行っている。			

3 事業計画の策定

	自己評価結果		
(1) 中長期的なビジョンと計画が明確にされている。	a	b	c
4 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	○		
5 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	○		
(2) 事業計画が適切に策定されている。	a	b	c
6 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	○		
7 事業計画は、子どもや保護者等に周知され、理解を促している。		○	
特記事項 ・中・長期計画は、経営課題や問題点の解決・改善に向けて具体的な内容になっており、必要に応じて単年度ごとに見直しを行っている。 ・子どもや保護者へはホームページや広報誌等に内容の一部を掲載している。			

4 養育・支援の質の向上への組織的・計画的な取組

	自己評価結果		
(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。	a	b	c
8 養育・支援の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	○		

9 評価結果にもとづき施設として取り組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	○		
特記事項 <ul style="list-style-type: none"> ・月1回の事業所内会議において、随時、支援の質向上に向けた協議がなされている。 ・事業所内外の研修によって支援の質向上のためのスキルアップの機会が用意されている。 ・PDCA サイクルにもとづいた取り組みがなされている。 			

II 施設の運営・管理

1 施設長の責任とリーダーシップ

	自己評価結果		
(1) 施設長の責任が明確にされている。	a	b	c
10 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	○		
11 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	○		
(2) 施設長のリーダーシップが発揮されている。	a	b	c
12 養育・支援の質向上に意欲を持ちその取組に指導力を発揮している。	○		
13 経営の改善や業務の実効性を高める取組に指導力を発揮している。	○		
特記事項 <ul style="list-style-type: none"> ・施設長は、養育・支援の質向上について職員の教育・研修の充実を図っている。 ・施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、人事、労務、財務等を踏まえ分析を行っている。 ・施設長（理事長）のリーダーシップの下、組織強化委員会の創設がなされ、コロナ禍で衰退してしまった事業所間の連携や若手リーダーを育成する仕組み作りが行われている。 			

2 福祉人材の確保・育成

	自己評価結果		
(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。	a	b	c
14 必要な福祉人材の確保・定着に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	○		
15 総合的な人事管理が行われている。	○		
(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。	a	b	c
16 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	○		
(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。	a	b	c
17 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	○		
18 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	○		

19 職員一人ひとりの教育・研修等の機会が確保されている。	○		
(4) 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。	a	b	c
20 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。		○	
特記事項 <ul style="list-style-type: none"> ・施設（法人）として、効果的な福祉人材確保（採用活動等）を実施している。 ・各種加算職員の配置に積極的に取り組み、人員体制の充実に努めている。 ・法人、施設の理念・基本方針にもとづき「期待する職員像等」を明確にし、職員自らが将来の姿を描くことができるような総合的な仕組みができている。 ・職員の有給休暇の取得状況や時間外労働のデータを定期的に確認するなど、職員の就労状況を把握している。 ・職員一人ひとりが設定した目標について、年度当初・年度末（期末）面接を行うなど、目標達成度の確認を行っている。 ・策定された教育・研修計画にもとづき、教育・研修を実施している。 ・階層別研修、職種別研修、テーマ別研修等の機会を確保し、職員の職務や必要とする知識・技術水準に応じた教育・研修を実施している。 ・実習生については、学校側と連携して実習内容の整備を行い、実習期間中においても巡回指導を行うなど継続的な連携を維持していくための工夫を行っている。 			

3 運営の透明性の確保

	自己評価結果		
(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。	a	b	c
21 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	○		
22 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	○		
特記事項 <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ等の活用により、法人、施設の理念や基本方針、養育・支援の内容、決算情報などが適切に公開されている。 ・法人、施設の理念、基本方針やビジョン等について、社会・地域に対して明示・説明し、法人、施設の存在意義や役割を明確にするように努めている。 ・地域へ向けて、理念や基本方針、施設で行っている活動等を説明した印刷物や広報誌等を配布している。 ・施設（法人）における事務、経理、取引等について内部監査を実施するなど、定期的に確認されている。 			

4 地域との交流、地域貢献

	自己評価結果		
(1) 地域との関係が適切に確保されている。	a	b	c
23 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。		○	
24 ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし、体制を確立している。		○	

(2) 関係機関との連携が確保されている。	a	b	c
25 施設として必要な社会資源を明確にし、関係機関との連携が適切に行われている。	○		
(3) 地域福祉向上のための取組を行っている。	a	b	c
26 地域の福祉ニーズ等を把握するための取組が行われている。	○		
27 地域の福祉ニーズにもとづく公益的な事業・活動が行われている。	○		
<p>特記事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域行事（お祭りなどのイベント）に積極的に児童参加の機会を設けている。 ・施設や子どもへの理解を得るために、地域の人々に向けた日常的なコミュニケーションを心がけている。 ・HUMAN SOLUTION TOWNにおける活動などを通して地域に法人の理念や活動を理解してもらう機会を設けた。 ・学校や児童相談所等と定期的な連絡会等を行っている。必要に応じて支援会議も開催した。 			

Ⅲ 適切な養育・支援の実施

1 子ども本位の養育・支援

	自己評価結果		
	a	b	c
(1) 子どもを尊重する姿勢が明示されている。	a	b	c
28 子どもを尊重した養育・支援の実施について共通の理解をもつための取組を行っている。	○		
29 子どものプライバシー保護に配慮した養育・支援が行われている。	○		
(2) 養育・支援の実施に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。	a	b	c
30 子どもや保護者等に対して養育・支援の利用に必要な情報を積極的に提供している。	○		
31 養育・支援の開始・過程において子どもや保護者等にわかりやすく説明している。	○		
32 養育・支援の内容や措置変更、地域・過程への移行等にあたり養育・支援の継続性に配慮した対応を行なっている。	○		
(3) 子どもの満足の向上に努めている。	a	b	c
33 子どもの満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	○		
(4) 子どもが意見等を述べやすい体制が確保されている。	a	b	c
34 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	○		
35 子どもが相談や意見を述べやすい環境を整備し、子ども等に周知している。	○		
36 子どもからの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	○		
(5) 安心・安全な養育・支援の実施のための組織的な取組が行われている。	a	b	c

37 安心・安全な養育・支援の実施を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	○		
38 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	○		
39 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的に行っている。	○		
<p>特記事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの尊重や基本的人権への配慮について、施設内で勉強会、研修を実施している。 ・一人ひとりの子どもにとって、生活の場にふさわしい快適な環境を提供し、子どものプライバシーを守れるよう設備等の工夫を行っている。 ・理念や基本方針、養育・支援の内容や施設の特性等を紹介した資料を準備している。 ・見学等の希望に対応している。 ・養育、支援の開始及び過程における養育、支援の内容に関する説明と同意にあたっては、子どもや保護者等の自己決定を尊重している。 ・他の施設や地域、家庭への移行にあたり、養育、支援の継続性に配慮した手順と文書による引継ぎを行っている。 ・定期的に子ども会議を開催し、生活のルールの見直しや子どもの意見が取り入れられるように工夫を行っている。 ・子どもから出た意見を月1回の職員会議で検討する場を設けている。 ・収集した事例をもとに、職員の参画の下で発生要因を分析し、改善策・再発防止策を検討・実施する等の取組が行われている。 ・感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を作成し、職員に周知徹底するとともに、定期的に見直している。 ・担当者等を中心にして、定期的に感染症の予防や安全確保に関する勉強会等を開催している。 ・災害に備え、食料や備品類等の備蓄リストを作成し、管理者を決めて備蓄を整備している。 ・定期的な避難訓練を行っている。 			

2 養育・支援の質の確保

	自己評価結果		
	a	b	c
(1) 養育・支援の標準的な実施方法が確立している。			
40 養育・支援について標準的な実施方法が文書化され、養育・支援が実施されている。	○		
41 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	○		
(2) 適切なアセスメントにより個別支援計画が策定されている。	a	b	c
42 アセスメントにもとづく個別的な個別支援計画を適切に策定している。	○		
43 定期的に個別支援計画の評価・見直しを行っている。	○		
(3) 養育・支援の実施の記録が適切に行われている。	a	b	c
44 子どもに関する養育・支援の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	○		

45 子どもに関する記録の管理体制が確立している。	○		
<p>特記事項</p> <ul style="list-style-type: none">・アセスメント⇒課題の整理⇒個別支援計画作成⇒評価（3 か月ごと）⇒個別支援計画の見直し（必要に応じてケースカンファレンスの実施）のサイクルにより内容が見直され、質の担保がなされている。・子どもの身体状況や生活状況等を、施設が定めた統一した様式によって把握し記録している。・LINEWORKS を活用した情報共有の仕組みが整備されている。・個人情報保護規定により、子どもの記録の保管、保存、廃棄、情報の提供に関する規定を定めている。			